

現況不明者消息調査件様票

(昭和五年六月十一日)

異地芳復員残務管理課係員業務課履歷認定B班

申告者

現住所

元華組 土田氏名

本籍地(現住所)

華組氏

重役係員

入籍番号

現況不明者

注本人に

対し信部

承知

参考事項

所 田田 豊

同上

年 6

15

特設章

香

現

年 6

10

現

別

現

死没場合は死没年月日(死没)昭和五年八月七日

戦死

死没の場所 山毛と湯島中南カブツ

死没の状況 陸軍に於ける服役中、米の糧食下、彼が、敵陣に墜り、戦死したものと推定されている。

左 貴族に於ける死没

何 本人が戦死したと推定されている。

場 本人は、本人が戦死したと推定されている。

回

28-6-24夏

現況不明者消息調査結果
兵地方復員課務課履歴認定B班

申告者

現住所

元等級

現況不明者

注本人に

対する高部

承知

事項

本籍地(現住所)

所管各旧四三警

同全令年月日

等級

大尉

特技章

電報付又は
入籍番号

入籍番号

現別

年月日

昭和七年八月八日

戦死

死没の場合には死没年月日

戦死か病死か病死の場合

死没の場所

死没の状況

左

何

本

場

ソコモノ諸島中 南がツツ
戦死に付ける低成五十米の接近下位の銃弾

23-6-24

打陳

(註)

合場員復人本

骨肉

漢

復

大儒鄉先

員轄所轄(部隊)

迎上陸地名及
年月日

本人の消息を誰に承
ねると判明しますか
その人の住居等級
氏名

下記は舊の軍人
軍爲の死没者（左）
異終りの消息を
存じありとせんか
有無を○印を附
りて（少記憶なるは
氏名附記）示し
下とい

旧 海軍省	旧 横鎮	旧 佐鎮	旧 新鎮
----------	---------	---------	---------

有 有 有 有






(一) 本表は、兵部、山手町、皇親、方海、漢、員、強、務、重、理、部、漢、員、業、務、課、履、歴、宛、必、丁

返送
下
さい

(二) 知得事項は推定でも結構です。から細大となく洩れなく記述して下さい。
(三) 消得は確認しなさい。から得た知得事項があるもの必ず記述して下さい。

晚晴書院叢書

[illegible]

2005

۱۵۰

戦死諒明書

海軍軍属

第十一設学隊

生年月日

至 戸籍

右の者 自分と一隊 次米 行 勅 也 若 以 し
た 就 責 として 戦 死 せ し 事 已 証 明 済 矣

昭和十七年五月四日

昭和十七年五月十九日

昭和十七年七月五日

昭和十八年一月十五日

大隊

吳港 出 航

至一ア ン ー 島 上 陸

島 嶼 以 來 島 北 端 の

島 嶼 中 一 自 動 車

車 好 多 死 亡

戦友

昭和十八年十月三十日

第一機行場の建設を終了した

引続き全島サモアの第二機行場を修理することになり、それを終了して、昭和十八年一月末頃カビエンに候る途中、爆撃を避けるため消燈進行中のトラングが谷底に墜落し、同乗していた

は右股、右肩、右腕に大怪我をして十二日、敵營隊付戦病院に入院した。三三日までそのきずが原因で死亡した事を、当營の衛生兵から聞き取った

以上[]の死亡に關し私の知つていた事實を証明します

昭和二十八年六月八日

宮崎 37

整理番號 154 不

元海軍軍人現況不明者調書

所轄(詳今年月日)	佐 國	等 級	氏 名	生 年 月 日	入 籍 番 號	本 籍 地
留 守 擔 當 者	父	氏 名	現 住 所	村 岡 大 字		
既 知 事 項	一、佐世保人事業務課資料 二、世話調(科)資料 三、家族(身寄)承知事項	一、(イ)遺骨有無() (ロ)遺留品有無() 昭和八年四月中旬 横須賀海軍工廠より来信	戦歿(行方不明)の場所横須賀海軍工廠 戦歿(行方不明)年月日昭和八年四月一日 戦歿(行方不明)の原因南洋方面に決行 戦歿(行方不明)時期入知り されていた戦斗部隊名	現 住 所		
情報提供 昭和 年 月 日	内地歸還年月日	部 隊 等 級 氏 名	入 籍 番 號	現 住 所		
所屬部隊に關するもの	これ以上に詳細な正 確な情報があるときは 別紙に記載すること	現況不明者個人に關するもの				
一、組成の時期及び場所(昭和 年 月 日 於) 二、内地出隊の時期及び場所(昭和 年 月 日) 三、進出要領		一、本人とは何處で何時迄一 緒にいたか 二、その時の本				

[illegible]

(別紙)

情報提供者氏名

記事

消息不明者

回答

様

昭和十七年
三月二十日大隆丸
に到着し當該に
安置されてゐる

第三号初丸

調理員

本籍地

小生乗船ハ昭和十八年三月十六日

ハ小生以前に來船

セモノニテ明カデハアランカ

昭和十六年頃ト聞テ居リマス

昭和十八年九月十日軍船

ニバウル港ヲ出帆後

年前十時頃海上ニ

於テ四キード機三機

ヨリ機銃彈射ヲ受ケタ

時本船廿四ノ室内ニ

伏シテ居リ本人ニ一機

中
文
で
記
述
し
て
い
ら
し
ま
す

四二二五三

佐世保地方復員局

32840

東京大学図書
21.3.-1

經由
大坂 184 號
21.3.-3
山崎町

死後
調書

3-7

603

本籍地	死後	調書
現住所	右同	
所属部隊	第六特別陸戰隊	隊
入隊年月日	昭和三年六月一日	投擲 現役兵 兵種 水兵
昇進年月日	水兵長	姓名 [Redacted] [Redacted]
内地臺灣出發年月日	昭和十七年十二月二十日	
戰地別着年月日	昭和十七年十月二十二日(マニラに着)	
勤務概要	野戰高射砲隊砲員、勤務	
負傷年月日		
病名(負傷部名)		
發病(負傷)年月日		
病状概況	高射砲隊砲員として勤務中、友人(飛行道)と衝突し、墜下し、左足に骨折、重傷、死亡	

延平府日新制校場

昭和十八年十月一日 廣一坪六分

加中告大

昭和十八年三月 光

本籍地

現住所

相同

就職部隊

受業二特別隊

官年以

不月 不月

氏名

[Redacted]

不月

不月

[Redacted]

不月 承知

154

長壽縣志

[illegible]

北後場所

ハゲル、コ島、第、北端陣地三

昭和七年 月 日

昭和七年七月二十三日 北端

北七時の状況

敵艦が来襲し、撃沈

右の通り承知しておますから申告致します

昭和七年 月 日

申告

北端 二等文書 氏名

北端

北端

北端

北端

北端

北端

昭和七年七月二十三日

北端

北端

P

現本
住籍
所地

所屬部隊第八十三空軍師

入國年月 大正十二年癸亥

官等級

內地漢文崇禎三年月日 昭和十六年十一月三十日 吳

[illegible]

勤務概要

灰毛原田ハマラリア大胸天ナリ

癸亥(年)月日 照文 十月三日 廣德堂 庚戌年十一月

シノ
イ
部住
マ
リ
ア
大
體
矣
ウ
エ
ワ
ク
茅
ニ
根
癒
舎

程慶下痢ヲナシ歩行困難ヲ来シ合セテ

平明時別
聖書ニテハ、
猶舎
テスイヂヤクノ爲メニ病ヲ死シ遺スルハ畏

東坡先生集卷之八
五言古詩

在申告人

昭和 年 月 日

申	告	者
本籍地	現住所	氏名
	所屬部隊	氏名
	等	入籍番號
	官等級兵營長	

備考

- (一) 本調書ハ部隊長又ハ残務取扱者等ニ於テ吳地方援員局人事部長宛通報ニシバスト認ムルモノニ付記載ス
- (二) 吳鎮在籍ノ特務士官准士官下士官等ニ付記載ス
- (三) 同府縣令勿論他府縣出身者ニ就テモ記載ス
- (四) 知得シル範圍ニ於テ出來得ル限リ詳細ニ記載ス
- (五) 他人ヨリ聞キテ承知シタル事項ハ各當該欄ニ拘テ方ヲ記載ス
- (六) 送付先

吳市ト

吳地方援員局人事部長宛

196

昭和十一年十一月三日宣統天下御事及約十五名にて去る所なり

少中川口より勢上流の山通端に渡り一隊軍部隊を

早に廿日の軍及び一基橋を依拠故海軍部隊も

これ一裏に戦死年月日記に戦況により次第に去る所なり

連日軍部一隊(天三四等物)風を数包一個現存八天を備全

有りたてまつる所なり

連日軍部一隊(天三四等物)風を数包一個現存八天を備全

有りたてまつる所なり

連日軍部一隊(天三四等物)風を数包一個現存八天を備全

有りたてまつる所なり

連日軍部一隊(天三四等物)風を数包一個現存八天を備全

有りたてまつる所なり

連日軍部一隊(天三四等物)風を数包一個現存八天を備全

有りたてまつる所なり

連日軍部一隊(天三四等物)風を数包一個現存八天を備全

有りたてまつる所なり

連日軍部一隊(天三四等物)風を数包一個現存八天を備全

有りたてまつる所なり

死 亡 現 認 証 明 書

陸 海 邦

裏面記載上の注意を見ておいて下さい。(※及び裏面の各欄は記載に及びません)

資 料 提 供 者		死 亡 者										死			
死 亡 知 照 方 法		遺 留 品 の 処 理	遺 骨 及 び 遺 骸 の 処 理	元 (死 亡 事 由 (傷 病 名))	諸 死 亡 場 所	亡 死 亡 日 時	死 死 亡 区 分	発 病 場 所	発 病 時 期	区 分	本 籍 地	(開 戦 時 の 住 所 (在 留 地))	域 名	所 属 (所 轄) 部 隊 又 は 職	通 有 固
当 時 の 状 況 か ら 見 て 推 定				敵 機 の 攻 撃	ワシントン群島アーデンビル島近海	昭和十八年三月十九日	※ 戦 死				内 容			佐 々 木 國 夫	佐 々 木 國 夫
死 亡 者 と の 関 係												属 所 部 細			
同 地 に あ る 左 部 隊												面 局 区 地			
												※ アーデンビル島			
所 住 現												種 兵 種 役			
佐 々 木 國 夫												兵 科 召 名			
死 亡 当 時 の 状 況 及 び 参 考 資 料		本人は三才で、所在地は同じアーデンビル島にある。佐々木國夫と、本人は同じに判らなかつたが、当時の状況から見て、昭和十八年三月十九日のアーデンビル島近海で戦死したものと推定する。 本人が八病に入院を命ぜられたのは昭和十八年三月十九日であるが、アーデンビル島に到着したのは三月二十日である。三月二十日は、佐々木國夫と、本人は同じに判らなかつたが、当時の状況から見て、昭和十八年三月十九日のアーデンビル島近海で戦死したものと推定する。 本人が八病に入院を命ぜられたのは昭和十八年三月十九日であるが、アーデンビル島に到着したのは三月二十日である。三月二十日は、佐々木國夫と、本人は同じに判らなかつたが、当時の状況から見て、昭和十八年三月十九日のアーデンビル島近海で戦死したものと推定する。										死 亡 時 階 級 (戦 時 階 級 名 義 氏 名)			
												名 氏			
												年 月 日 生			
												女 (男)			